

# 西中学校における学級経営再構築

## ～学級経営委員会の取り組み～

足利市立西中学校 加藤容子

### 1 はじめに

生徒たちにとって、学校生活の基本は学級生活である。学級生活をいかに安心して送れるかによって、生徒たちが力を十分に伸ばして充実した学校生活を送れるかどうか決まるともいえる。

西中学校では、平成13年度より「学級経営委員会」を学習指導・生徒指導委員会に加えて常設委員会とし、学級経営の再構築をはかってきた。

本年度は、西中学校の実態をふまえ、学級経営上努力すべき点を話し合い、実践した。

### 2 学級経営委員会の取り組み

#### 実践例（1）学級担任のこだわりを生かした学級経営（6月）

学級担任となると、学級経営方針という大きなお題目の他に、何か自分として「こだわり」をもって毎日学級生活を送るようになる。

この「こだわり」は、自分として毎年変わらぬ考えもあり、また、生徒が変われば目の前の生徒に対するこだわりも出てくる。この「こだわり」は、なかなか他人には伝わりにくいものである。隣のクラスの担任のこだわりにも、気づきにくい。まして、保護者に伝える機会はなかなかないものである。

そこで、学級経営委員会では、次のように提案した。

- ① 学級担任のこだわり、具体策、自己評価をあげる。

（学級経営の自己研修）

- ② 一覧にまとめる。

（担任の思いを相互理解、チームワークのある学年・学校づくり）

- ③ 学級経営上の共通指導を考え、実践する。（学級経営の共通理解）

- ④ 学級の保護者へ学級経営を公開する。

（学校評価システムへつなげる）

平成15年度 学級担任のこだわりと具体策

第1学年

こんなクラスにしたい	わたしのこだわり	どれくらいできたか
時間を守る	8:30から10分間読書をする。	A 10分間読書ができた。 B 生徒に朝読書を促しながら読書をした。 C 見回り指導をされていて読書ができなかった。
人の気持ちを考えることのできるクラス	いじめや人権・同和教育を題材とした道徳の授業をできるだけ多くおこなう。	A 月に2回以上おこなった。 B 月に1回おこなった。 C 1ヶ月おこなわなかった。
勉強するクラス	一週間で3日以上、生活グループの中に入って給食を食べる。	A 1週間で4日以上できた。 B 1週間で2日以上できた。 C 1週間で1日以下だった。
けじめがつけられるクラス	朝の会、帰りの会、清掃をチャイムとともに始め、終わす。	A 1週間で4日以上できた。 B 1週間で2日以上できた。 C 1週間で1日以下だった。
居がいのあるクラス	朝の会で呼名し、一人一人と顔を見合わせる。	A 多くの生徒が大きな声で返事をした。 B 半数程度の生徒が返事をした。 C 呼名に反応しない生徒が多かった。
感動を共有できるクラス	学級通信を通して、学級的话题を生徒・保護者に伝えていく。	A 1週間で2回以上発行できた。 B 1週間で1回発行できた。 C 1週間に1回も発行できなかった。

第2学年

こんなクラスにしたい	わたしのこだわり	どれくらいできたか
思いやりのもてるクラス	1日1つ、クラスのよいことを話す。	A 1週間で4日以上できた。 B 1週間で2日以上できた。 C 1週間で1日以下だった。
楽しい時に笑い、一緒に何でもできるクラス	一日の中で生徒といっしょに過ごす時間を多くし、会話をふやす。	A 20人以上と会話し楽しく取り組んだ。 B 10人以上と会話し楽しく取り組んだ。 C 会話をしたのが10人以下だった。
時間を守れるクラス	短学活、給食、清掃を時間どおりに行う。	A 毎日できた。 B 1週間で3日以上できた。 C 1週間で2日以下だった。
目を見て話を聞くクラス	話をしているときは、必ず生徒を注目させる	A 生徒の良い話を、1週間で4日以上できた。 B 1週間で2日以上できた。 C 1週間で1日以下だった。
そうじがしっかりできるクラス	生徒より先に掃除場所に行き、清掃を行う。	A 毎日できた。 B 1週間で3日以上できた。 C 1週間で2日以下だった。
互いに認め合うあったかいクラス	よかったこと、うれしかったこと、ひとり一人の良さなど機会をつくって話す。	A 毎日できた。 B 1週間で2日以上できた。 C 1週間で1日以下だった。
やるべきことはしっかりできる	1日・1時間の予定を知らせ、やるべきことをしっかりと把握させる	A 毎日、予定を知らせてやるべきことを理解させられた。 B 知らせたが、理解させられなかった。 C 予定を知らせなかった日があった。

第3学年

こんなクラスにしたい	わたしのこだわり	どれくらいできたか
あたりまえのことがあ たりまえのようにでき るクラス	毎日、全員の生徒と話を する。	A 1週間で4日以上クラス 全員に認め合う言葉かけが できた。 B 1週間で2日以上できた。 C 1週間で1日以下だった。
クラス全員、笑顔で卒 業する！（進路決定を する）	毎日、全員と話をする。	A 1週間で4日以上それぞ れの進路をみすえた話でき た。 B 1週間で2日以上できた。 C 1週間で1日以下だった。
元気にあいさつ、返事 をする	学級だよりを年間20号 発行する。 担任からすすんであいさ つをする。	A 毎日気持ちよく、全員と あいさつができた。 B 1週間で3日以上できた。 C 1週間で2日以下だった。
いじめなしで卒業	グループをまわって給食 を食べる 全員と毎日話をする	A 給食の時間を利用して、 クラス全員と毎日、会話を することができた。 B 1週間で3日以上できた。 C 1週間で2日以下だった。
友達に気遣いができる ようになってもらいた い	帰りの会で、日直が「一 日の感想」を発表するとき、 静かに聞く・拍手をするを 毎日行う。	A 毎日できた。 B 1週間で3日以上できた。 C 1週間で2日以下だった。

・2月に自己評価を行い、次年度以降の学級経営課題とする。

## 実践例（２）教室環境整備を重視した学級経営（１１月）

１０月３１日・１１月１日に、本校では文化祭が行われた。その影響もあったためか、１１月になると教室環境の不備が目立つようになった。

- ① 現状 ・床のゴミが目立つ。（給食後、特に）  
・ロッカーの上に、教材・教具・プリント類が散乱している。  
・制服や体育着の脱ぎ散らかしが多い。  
・ロッカーの中が整理されていない。
- ② 対策 ・全学級に下記のことをお願いし、学級担任が実行する。

① 給食終了時（ごちそうさまのとき）に、床のゴミ点検・机の整頓を行わせてから、教室を出すようにする。

② 金曜日の帰りの会で、教室内・ロッカーと机の中の整理の時間をとる。

全クラスでおこなっていきましょう

③ 給食時の放送で、教室環境を整えることを促す。  
（後日、放送委員会と検討）

このほかに、担任は朝・夕のどちらかで、毎日、教室内の机・イスの整頓を行っている。

## ③ 実施状況報告（１２月）

第３学年 ・学年運営委員会の取り組み「西中を日本一きれいな学校にしよう」とあわせて、よく活動できている。  
・ごちそうさまの前にみんなで声をかけあい、ゴミを拾っている。  
・給食の後かたづけのとき、ゴミを落とさないように生徒が気をつけるようになった。

第２学年 ・教師側からの声かけに効果が見られた。  
・ロッカーの片づけを行ったあと、生徒たちが整頓の工夫を話合っていた。  
・昼休みに、教室内の簡単な清掃を行う係をつくった。

- 第1学年
- ・学年の取り組み「へそランチ」とあわせて、よく活動できている。
  - ・以前よりずいぶんときれいになってきた。
  - ・教室をいつもきれいにしようという気持ちが、生徒の中に出てきた。
  - ・金曜日の「机の中の整頓」に、効果が見られた。

### 3 学級経営委員会としての今後の課題・次年度計画

今年度は、学級経営のこだわりを見つめ自己評価をすることで、自己研修につながった。また、担任間で相互理解もはかれたと思う。

今後はまず、学級経営委員会としてのこだわりを考えたい。

次に、学級担任以外の本校教職員の力を、学級経営上どう生かしていくか、そして西中を支えてくれる地域・保護者の方々の力をどう生かしていくか、に考えを広げていきたいと思う。

そして、学級経営委員会としての「こだわり」を提示し、学級経営上全クラス共通してそれを実行し、西中をよりよくするためさらに効果を上げたいと考えている。

## 評

子どもは、学級担任を選べない。学級担任もまた、子どもを選ぶことはできない。この両者の出会いが、生徒の学びと成長の場であるそれぞれの学級の空気を醸成していく。一人一人にとって居がいのある学級とは、生徒自身が学級の主人公としてかかわる可能性を切り捨てられることのない、「自己有用感」が保障される空間である。この学級づくりの中心となるのが、言うまでもなく学級担任であり、学級経営こそ学級担任の醍醐味とも言えよう。筆者は、学級こそ学校生活の基本であり、学級は安心して生活できる場、力を十分発揮できる場、充実した生活が過ごせる場であると捉えている。

本稿の特徴の第一は、教師自身がどのような学級にしたいのかという「学級担任のこだわり」を大切に実践していることである。学級経営に対する「こだわり」を具体的な言葉（目標）で意識し、どれくらいできたか達成状況をA、B、Cで評価している。教師自身の振り返りを大切にし、学級経営の技量を高めようと努力している点である。

第二は、学級経営上の共通指導を通して職員間の共通理解を大切にし、実践している点である。「共通理解」「共通指導」は、言うは易し、行なうは難しもの。だからこそ、本校は、できるだけ具体的な姿（実態）、具体的な実践（方策）で語り合いながら、相互理解を深め共通の指導を図っているのである。

そして、第三は、学級経営委員会を常設委員会として、全校体制で取り組んでいる点である。西中をよりよくするため、担任はもちろん全教職員の力を学級経営の上に生かし、よりよい学級づくりを図るとともに、保護者に対しても理解と協力の輪を広げようと実践している点である。

教師が骨惜しみさえしなければよい生徒が育つという、だからこそ、今日も真摯に自分の学級経営を見つめていくのだという筆者の「こだわり」に感謝し、評としたい。